

# 経営比較分析表（平成28年度決算）

神奈川県 南足柄市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A5	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)	
-	83.90	98.12	1,566	

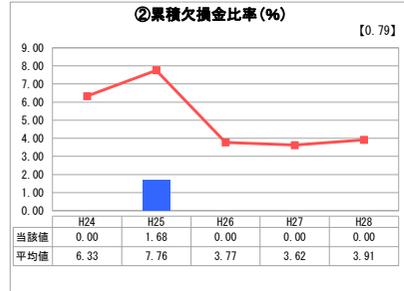
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
43,348	77.12	562.09
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
42,341	19.05	2,222.62

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 平成28年度全国平均

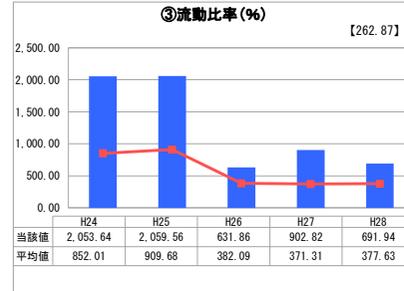
## 1. 経営の健全性・効率性



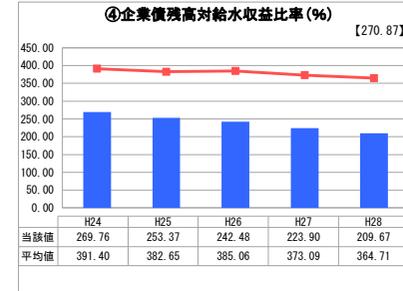
「経常損益」



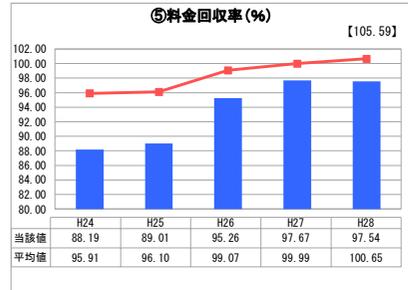
「累積欠損」



「支払能力」



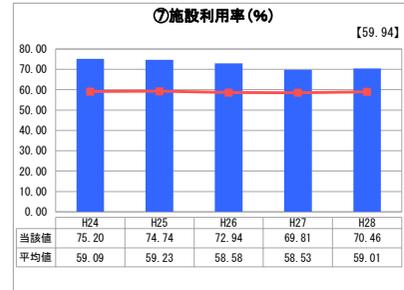
「債務残高」



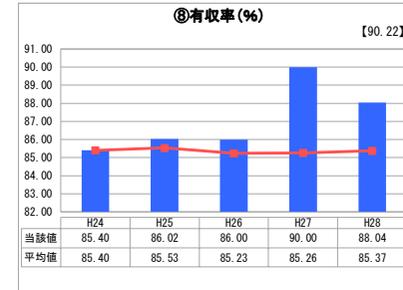
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」



「施設の効率性」

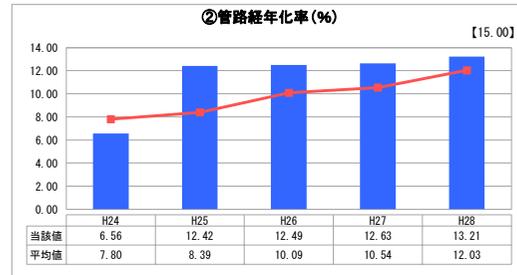


「供給した配水量の効率性」

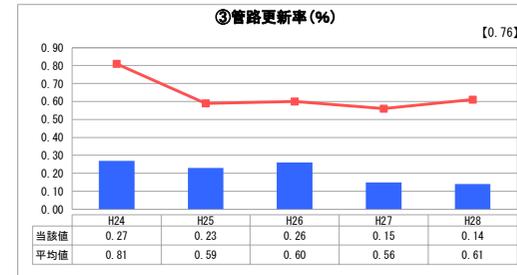
## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率は100%以上で、累積欠損がない状態は比較的安定した経営状態といえます。短期的な支払能力も十分にあり、企業債残高も類似団体と比べて低い水準にあります。しかしながら、料金回収率が100%以下ということは水道料金以外の収入で賄われているため、経営においては不安要素となります。かつ、近年の決算状況から給水収益の減少は顕著であり、厳しい経営状況に推移していくことが予想されます。給水原価が類似団体より低いのは、本市が表流水と地下水の両方を水源として利用していることや、立地条件によるものと考えられますので、今後も有効利用を継続していきます。施設の利用においては比較的高い利用率で有効に活用していると思われます。有収率においては、昨年度漏水対策を講じ上昇しましたが、全域での対策ではないため再度下降したため、定期的な対策を講じて有収率の向上に努めてまいります。

### 2. 老朽化の状況について

供給開始が昭和35年ということもあり、管路の老朽化は類似団体より進んでいます。さらに本市は、償却期間が短い機械類の資産を比較的多く保有しているため、減価償却率が類似団体や全国と比較してやや高い状況です。管路の経年化は著しく進んでいる上、更新率が高くないため、必要な更新が進んでいない状況と言えます。投資による財政推計を踏まえ、優先順位をつけて更新を行う計画をしており、できる限りの更新に努めてまいります。

### 全体総括

現行の料金では、近い将来、経営は厳しくなることが予想されます。留保資金とともに起債を利用した財政計画により、計画的な更新を進めているところですが、確実な老朽化対策のためにも財源を確保したいと考えています。財源確保のために必要不可欠となるであろう料金改定については、現在のところ、現状維持の料金と答申が出ておりますが、設備投資を行いながら、財政状況と経営状況を毎年踏まえ、慎重に検討していきます。

※ 平成24年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。